

# ピコ

# 1

2012年 No.320  
平成24年 1月



# 謹賀新年

新年挨拶 ..... 2~4  
佐藤孝一さん 第15回北海道総合畜産共進会  
ジュニアチャンピオン受賞祝賀会 ..... 5  
2011北海道ホルスタインウィンターフェア、  
「TMRセンター」竣工式行われる ..... 6  
北海道口蹄疫防疫演習 ..... 7  
酪農部会視察研修、整備工場技術講習会 ... 8  
2011飼料アップとかち、家畜伝染病予防法施  
行規則改正に基づく説明会 ..... 9  
南十勝四町村和牛勉強会 ..... 10  
不法投棄合同パトロール行われる、  
家畜ふん尿の適正管理に係る巡回調査が行われる、  
農業用廃プラスチック類回収行われる ..... 11

不要農機具・車両等回収処理事業行われる ... 11  
Aコープ野塚店リニューアル、毛がにまつり ... 12  
町内の牧場で実習、すみれ会 観劇温泉旅行、  
個性の光るオリジナルスタンプ作り ..... 13  
JA青年部視察研修、青年部の農薬空容器回収  
..... 14  
第36回JA十勝青年部大会、コンプライアンス  
研修会開催 ..... 15  
TPPでどうなる？もう一度じっくり考えよう  
..... 16~17  
理事会報告 ..... 18  
表紙インタビュー・占い ..... 19

# 新年の挨拶



広尾町農業協同組合代表理事組合長

## 萬亀山正信

輝かしい新春をご家族皆様で迎えられたことと存じ、心からお慶び申し上げます。また、旧年中は当JAの運営に對しまして特段のご理解とご支援・ご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。さて、昨年3月11日に発生しました東日本大震災は各地に甚大な被害をもたらし、本町においても沿岸部を中心に大きな被害を受けました。また、本町とゆかりのある方々も多く被災され

たこと對しまして衷心よりお見舞い申し上げますとともに、一日も早い復興を心から願っております。また、昨年は比較的天候にも恵まれ、畑作においては平年作以上の収量となり、飼料作物においても品質・収量ともに確保でき、今後の生乳生産拡大に期待しているところでありますとともに、農家戸数が減少する中、当JA史上最高の生産高を挙げることが出来ま

したことは、ひとえに組合員皆様の営農に取り組み意欲的な姿勢とたゆまぬご努力のたまものであり、深甚なる感謝の意と敬意を表します。農業を取り巻く環境は、昨年11月1日に野田首相がTPPへの参加に向けた協議の開始を表明したことで、農業界に大きな衝撃が走り、今後の営農に一層の不安感が広がっておりますが、TPP参加は地域農業に壊滅的な被害をもたらす可能性が高く、当JAはもとより全国のJAグループが一丸となつて断固反対の姿勢を貫いて参ります。また、組合員皆様のご理解を頂きながら着工致しましたJAひろおTMRセンターの施設が11月21日に完成し、本年9月頃より供給を開始する予定であり、経営コスト低減と効率化を目指して、生産基盤の強化と組織の拡充を図つて参りますので、引き続きご理解とご協力を宜しくお願い申し上げます。さらには、この厳しい農業情勢の中、組合員の皆様にご理解頂きながら進めて参りました当JAの資本増強計画も、本年をもつて達成する見込となり、この間の組合員皆様のご協力・ご支援に深く感謝申し上げますとともに、今後はより一層、組合員負担の軽減に向け取り組んで参ります。

TPPへの参加問題や飼料、資材、燃料等の高止まりによる経営コスト増大など多く問題が山積しておりますが、今後も本町農業の持続的発展と農家経済の向上を目指していくために、一層のコスト低減と効率化の歩みを止めることなく、当JAと致しましても組合員支援のあり方、支援方法、組織形態等について組合員皆様と十分議論を重ねながら進めて参りたいと考えております。今後、厳しい農業情勢が続くと思われませんが、協同の力を結集して頂き、役員共々一丸となつて諸問題に立ち向かつて参る所存でありますので、ご支援・ご協力を重ねてお願い申し上げます。最後に、本年が天候に恵まれ、災害が無く、稔りの多い年でありますことと、組合員、ご家族皆様のご健勝とご活躍を心からお祈り申し上げます、新年にあたってのご挨拶と致します。



# 年頭にあたり



北海道農業協同組合中央会会長

## 飛田 稔章

組合員をはじめJA役職員の皆様方が、希望に満ちた平成24年の新春を、ご家族とともに迎えられたことを心からお慶び申し上げます。昨年

が経過しましたが、復興への道筋は決して容易なものとはなつておらず、また原発事故の収束にも目途が立たず、全国の農業者や消費者は不安な日々を抱えています。JAグループは、今後とも食料供給基地である被災地の復興に向けてあらゆる支援を続けていくこと、政府の指導のもとで安全・安心な農畜産物を安定的に消費者の皆様にお届けすることに、今こそ協同組合の精神である「絆」を大切にする価値観のもとで、総力を挙げて取り組むことが必要です。

また、環太平洋連携協定(TPP)に關しJAグループ北海道は、与野党国会議員に対する要請を行ない、昨年11月4日に札幌市で「ともに考えよう『この国のかたち』TPP交渉問題を考える道民集会」を開催しました。野田首相がAPERCに向け「交渉参加に向けて関係各国との協議を開始し、各国が我が国に求めるものについて、さ

源である食料生産を担う組合員が安心して農業経営に従事し、さらなるステップアップを図り、食料自給率の向上に寄与し安全・安心な農畜産物の安定供給を通じて、消費者の皆さんに北海道農業を応援していただくための取り組みです。JA経営では「協同と信頼の絆で築く新時代のJA」の実践によつて、経営の健全化と強靱な経営基盤を確立し、組合員の期待に応じられる高度な事業機能を有するJAとなることをめざすものであります。また、国連は平成24年を国際協同組合年とすることを宣言しました。「協同組合がよりよい社会を築きます」のスローガンのもと、協同組合の社会的役割・意義をアピールしていきましょう。

組員をはじめJA役職員の皆様方が、希望に満ちた平成24年の新春を、ご家族とともに迎えられたことを心からお慶び申し上げます。昨年

が経過しましたが、復興への道筋は決して容易なものとはなつておらず、また原発事故の収束にも目途が立たず、全国の農業者や消費者は不安な日々を抱えています。JAグループは、今後とも食料供給基地である被災地の復興に向けてあらゆる支援を続けていくこと、政府の指導のもとで安全・安心な農畜産物を安定的に消費者の皆様にお届けすることに、今こそ協同組合の精神である「絆」を大切にする価値観のもとで、総力を挙げて取り組むことが必要です。

また、環太平洋連携協定(TPP)に關しJAグループ北海道は、与野党国会議員に対する要請を行ない、昨年11月4日に札幌市で「ともに考えよう『この国のかたち』TPP交渉問題を考える道民集会」を開催しました。野田首相がAPERCに向け「交渉参加に向けて関係各国との協議を開始し、各国が我が国に求めるものについて、さ

源である食料生産を担う組合員が安心して農業経営に従事し、さらなるステップアップを図り、食料自給率の向上に寄与し安全・安心な農畜産物の安定供給を通じて、消費者の皆さんに北海道農業を応援していただくための取り組みです。JA経営では「協同と信頼の絆で築く新時代のJA」の実践によつて、経営の健全化と強靱な経営基盤を確立し、組合員の期待に応じられる高度な事業機能を有するJAとなることをめざすものであります。また、国連は平成24年を国際協同組合年とすることを宣言しました。「協同組合がよりよい社会を築きます」のスローガンのもと、協同組合の社会的役割・意義をアピールしていきましょう。



JAひろお女性部部长  
**山本 和美**

機材の導入を行ってき  
ました。そして平成21  
年度より、年に一度、  
漁協、商工会、農協の  
3団体女性部による料  
理交流会を開催してい  
ます。昨年は、開催予  
定日の3日前に起きた  
震災の影響で、残念な  
がら中止となってしま

女性部の皆様、並びに組合員、ご家  
族の皆様、新年あけましておめでとう  
ございます。  
昨年中は女性部の活動に對しまして、  
特段のご協力を賜り、厚く御礼申し上  
げます。

昨年は、各地で様々な災害が起こり、  
心の痛む日々が幾度となくありました。  
震災によつて、今なお多くの困難を  
余儀なくされている人々の姿が、連日  
報道されています。働く場があり、食  
べる物があり、安心して眠れる場所が  
ある。そんな、ごく普通の日常を送  
れる事が、どんなに幸せな事を痛感  
した一年でした。  
平成17年度から、中山間事業による  
広尾町3団体女性部交流事業の一環と  
して、改善センターの調理室の整備、

いましたが、今年は開催に向けて準備  
を進めている所です。他業種の女性達  
と、身近に交流できるとも良い機会  
です。皆さんぜひ参加して、大いに見  
聞を広げましょう。

あるメーカーのセールスさんが、「そ  
の牧場が元気かどうかは、その母さ  
んを見ればすぐ分かる。母さんが明る  
く元気な牧場は活気がある」と言つて  
おられました。なるほど確かに母さん  
の笑顔は、牧場の元気な源なのかもし  
れませんね。

最後にJAひろおをはじめ、各関係  
機関の皆様には今後とも、なお一層の  
ご指導、ご支援、ご協力をお願いし、  
新年の挨拶と致します。



JAひろお青年部部长  
**藤井 将利**

青年部員並びにご家族、関係機関の  
皆様、新年あけましておめでとうござ  
います。

昨年中は青年部活動に對しまして特  
段のご支援、ご指導を賜り厚くお礼申  
し上げます。

昨年は、東日本大震災と日本だけ  
なく、世界各地に激震が走りましたが、  
人と人との思いやりがこんなにすこ  
い絆を作つていつて、支えあえる事がす  
ばらしいと思える一年でした。ですが、  
その震災で最悪な事もおこつてしま  
いました。福島原発です。これは、世  
界規模から言つても、大変な事故にな  
つてしまいました。人にも作物にも、放  
あらゆる生き物に悪影響を及ぼす、放

射能問題これからどうなつていつてし  
まうでしょう。

また、TPP問題では、今まで以上  
に農業を取り巻く情勢、環境は厳しく  
なつていくと思われま

私たちが青年部は、十勝地区農協青年  
部協議会へ加盟して、2年目となりま  
したが、各地区の盟友とも、ますます  
交流を深め楽しい2年間でした。

今後とも部員一丸となつて活動し、  
本町農業の発展に向け一層努力して参  
りたいと考えておりますので、各関係  
機関や諸先輩方々の更なるご支援、ご  
指導をお願い申し上げ新年の挨拶と致  
します。

佐藤 孝一さん

第15回 北海道総合畜産共進会

ジュニアチャンピオン受賞祝賀会



10月17日、第15回北海道総合  
畜産共進会でジュニアチャンピ  
オンを受賞しました佐藤孝一さ  
んの祝賀会が広尾町農村環境改  
善センターにおいて行われまし  
た。  
開会にあたり、主催者を代表  
し萬亀山組合長の挨拶があり、  
佐藤孝一さんに花束贈呈が行わ  
れました。村瀬町長並びに新海  
農業委員会会長から祝辞を頂き、  
山本乳牛改良同志会会長の乾杯



挨拶のあと和やかなム  
ードで祝宴が始まりま  
した。

受賞にあたって佐藤  
孝一さんから、受賞の  
慶びと、「これからも  
乳牛改良に励んでいき  
たい」と挨拶がありま  
した。

最後に森田代表監事  
の万歳三唱をもちまし  
て閉会致しました。  
なお、受賞牛の各共  
進会成績は次の通りで  
す。

TMF ブレーク ウィルデイ ビスタ号 各共進会成績

第14回広尾町ジュニアホルスタインショウ			
グランドチャンピオン	第2部	1席	未経産ジュニアクラス
第40回南十勝B&Wショウ			
ジュニアチャンピオン	第2部	1席	育成ミドルクラス
第42回十勝B&Wショウ			
ジュニアチャンピオン	第2部	1席	育成シニアクラス
2011北海道B&Wショウ			
ジュニアチャンピオン	第2部	1席	育成シニアクラス
広尾町家畜祭			
未経産最高位	第1部	1等1席	未経産ジュニアクラス
第42回十勝総合畜産共進会			
	第3部	1等3席	未経産ジュニアクラス
第15回北海道総合畜産共進会			
ジュニアチャンピオン	第2部	1等1席	未経産ジュニアクラス

# 北海道口蹄疫防疫演習

11月4日、十勝農協連家畜共進会場にて、北海道口蹄疫防疫演習が開催されました。今回の演習は、口蹄疫が発生し制限区域での防疫作業（消毒ポイント）について実地作業を体験しました。全道から農林水産省や陸上自衛隊、道警、市町村の担当職員ら総勢330



農場に入ってから作業は、それぞれ牛の殺処分、牛舎等の清掃・消毒、埋却作業班に分かれることになりました。生きた牛8頭を屠殺場所へ移動し、1頭ずつ評価、写真撮影を行います。埋却地では、殺処分した牛に見立てたバッグを、深さ4mもの大きな穴にパワーショベルでつり下げ、消石灰を散布していました。

名が参加して行われました。家畜伝染病予防法改正のポイント、飼養衛生管理基準についての講義の後、発生農場へ出入りする際の準備を体験。中継地点として設置された施設で問診を終えた後、防護服を2重に着てバスで農場へ移動してマスクや手袋を装着し、長靴・手袋・防護服のつなぎ目はガムテープでしっかりと固定します。

農場以外では、車両の消毒ポイントごとに車両の誘導と、車両消毒を行い、特に畜産関係車両に対しては、荷台部分の消毒も欠かせないので、消毒液入りの霧吹きを手渡して車両内の足下も念入りに消毒してもらいます。全ての作業が終了後、全身を噴霧器で消毒し、農場テントで防護服等を脱ぎ、最初の中継地点へ移動し、シャワー等で全身を洗浄しホテルへ帰還となります。



平成24年度の営農にあたって「営農計画書」は経営の指針となるものであり、本年度の経営の目標を決める大切な計画書でありますので、ご家族皆さんで十分相談の上、提出期限まで提出されますようお願い申し上げます。

**「営農計画書」の提出はお早めに**

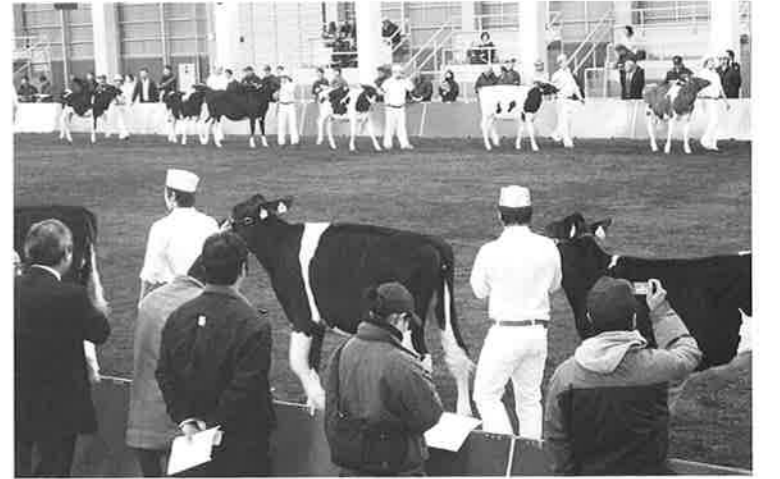
なお、提出期限を過ぎても未提出の場合には計画書が提出されるまで組合員勘定による資金の提供は出来ませんので宜しくお願い申し上げます。

**提出期限**

**平成24年1月20日(金)**

# 2011 北海道ホルスタインインターフェア

10月30日、北海道ホルスタインインターフェアが、十勝農協連家畜共進会場（音更町）において審査員に北海道ホルスタイン農業協同組合 審査部長 佐藤貢氏を招き行われました。本町からは、佐藤孝一牧場、山本勝己牧場の2戸から出陳があり、佐藤孝一牧場のノースドリーム CL ダミアンハーモニー ET号が第8部ジュニアウインターカップにおいて1位を獲得しました。なお、出陳牛の主な入賞成績は次の通りです。



## 北海道ホルスタインインターフェアの主な入賞成績

クラス	順位	名 号	出陳者
未産シニアクラス	2位	クリーン HL テンプター	佐藤孝一牧場
ジュニアウインターカップ	1位	ノースドリーム CL ダミアン ハーモニー ET	佐藤孝一牧場
シニア3歳クラス	2位	ウイナーマイン GW レイチエル	山本勝己牧場

## 「TMRセンター」竣工式 行われる

11月21日、共栄地区にて、建設中でありましたTMRセンターの完成に伴い、関係者50名の出席により竣工式並びに竣工祝賀会が行われました。



完成したTMRセンターは、約3.5ヘクタールの敷地に飼料調製庫1棟とバンカーサイロ等を設置し、当農協と構成員が共同出資した「株式会社ピラオロ（杉田淳代表取締役）」が運営し、平成24年9月に本格的に供給が開始される予定です。

竣工式には萬亀山組合長をはじめ、村瀬優町長・喜多龍一協議会議長らが出席し、テープカットで竣工を祝いました。

# 『根のまわりの環境づくりが重要』

11月8日、アグリアリーナ（音更町）で十勝農協連主催による「2011飼料アップ展示会」が開催され、飼料用とうもろこしに関する調査研究の内容について報告されました。

調査結果では、根のまわりの土壌が発達している圃場では、根が1m以上あり、背丈はあまりないですが、茎が太く生収量・TDN収量が高い傾向にあります。

十勝管内の圃場については、作土層が浅く下層土が堅い圃場が多くあります。根のまわりの下層土が堅い圃場では、パンケーキ状の根が多く、風により倒れたところもあります。

下層土が堅い原因として、パワーハローの爪がとどかないことや、大型機械による土壌の鎮圧が影響しています。対策としては根のまわりの環境づくりが大切です。



## 根を育てる = 根のまわりの環境づくり

- ・ 作土に力を!!
- ・ PH・堆肥・有機質を作土全体に混和し、徐々に層を厚くする。
- ・ 堅い層を砕き、水はけを良くする。
- ・ 気相の拡大を行う。(天候・鎮圧を考えた機械作業)
- ・ 心土破碎を定例化する。

## 家畜伝染病予防法施行規則改正に基づく説明会

11月16日、広尾町農村環境改善センターにて、家畜伝染病予防法（以下：家伝法）施行規則の改正に伴う説明会が開催されました。講師に十勝家畜保健衛生所の沢邊主査を招き、改正内容のポイントについて講演を頂きました。

新設された基準としては、衛生管理区域の設定があり、住居区域等と区別して、必要のない者の立入りの制限が目的となります。白線やロープ、柵やコーンなどで、部外者の立入りが制限されていることを示し、衛生管理区域へ出入りする車両や人については、消毒設備の設置や、消石灰等の散布による防疫が必要となります。

口蹄疫のような特定の症状を発見した場合は、直ちに家畜保健衛生所に通報する義務が生じ、報告を怠ると、万が一口蹄疫が発生した場合、被害が大きくなるばかりか、補償が受けられない可能性があります。

このほか、定期的な消毒の実施、密飼いの防止、野生動物の侵入防止の為にネット等の設置義務、口蹄疫が発生した場合の埋却地の確保も重要な内容です。また、感染ルート等の早期特定のため、衛生管理区域へ出入りする車両・人の記録を作成し、1年以上保管しなければなりません。



## 酪農部会視察研修

11月7日、広尾町酪農部会の視察研修が行われ、豊頃町の農事組合法人よつ葉牧場、育成預託施設の株式会社シー・ブライト、農事組合法人Jリードを視察しました。

よつ葉牧場は現在4名の構成員、250haの耕作地（内コーン80ha）で、550頭の経産牛を14頭ダブルのパラレルパーラーにて3回搾乳しており、日量17tを生産しています。

7群に分けて管理していますが、朝の搾乳は5時間程度かかるため、次年度以降、さらに大きなパーラー建設を計画しています。

シー・ブライトは哺育・育成牛の受託管理を従業員4名で運営し、本年1月より受入を開始。よつ葉牧場も預託を行っており、900頭の受入規模があります。15戸の農家から仔牛を受け入れ、300日齢まで管理を行っています。受入牛舎では生後3日目から2週間管理し、体重測定、受入3日後にサルモネラ検査を行い、群管理へと移行します。受入当時は下痢が多かったため、受入農家には月2回会報誌を発行し、初乳の管理、環境改善等情報提供を行っています。

Jリードでは現在構成員4名、従業員20名（うち外国人労働者6名）で運営。340haの耕作地で昨年よりコーンを作付けしています。4棟のフリーストール牛舎、1棟の繋ぎ牛舎、哺育舎を完備し、経産牛640頭を飼育、本年度の生乳生産は6,300tを見込んでいます。

## 整備工場 技術講習会

11月12日、整備工場内で技術講習会が行われました。

今年度は走行中のトラブルの対処法を重点に、タイヤがパンクした時のスペアタイヤへの交換方法、最近の自動車は牽引フックがどこについているか、メーターパネルのランプ点灯表示の説明、発炎筒の使い方などを実演を交えながら行いました。

参加人数は7名で、皆さん真剣に話を聞いたり、疑問に思っていた事を質問したりと、とても良い講習会になりました。

